

ISSN 2435 — 0885

CODEN : SDSKF 6

島根大学生物資源科学部研究報告

Bulletin of the Faculty of Life and Environmental Sciences

Shimane University

No. 28 2023

島 根 大 学

Shimane University

Matsue, Japan

March, 2024

目 次

CONTENTS

[学術論文]

Research Papers

室田佳恵子・Rahman Mohammad Shahidur・多田明弘・宮崎博隆

島根県ブドウ品種「神紅」の副梢エキスが有する肌に対する機能性評価----- 1

武田育郎

間伐遅れの針葉樹人工林からの汚濁負荷流出の経年変化----- 6

武田育郎・深田耕太郎

降雨時における耕作放棄地からの汚濁物質の流出----- 13

上芝姫花・藤巻玲路・山下多聞

三瓶演習林における土壌小型節足動物の群集構造に及ぼす土壌団粒の影響----- 19

島根大学生物資源科学部研究報告（令和5年度版）

（学術研究委員会）

投稿規定

- （1）島根大学生物資源科学部研究報告は原則として年1回発行する。
- （2）本研究報告には、島根大学生物資源科学部の教職員、院生、学生、外国人研究者および学術研究委員会において認めたものが投稿することができる。
- （3）本研究報告の内容は、原著論文、総説および解説などとする。
- （4）原著論文、総説、解説の執筆要領は別に定める。
- （5）投稿予定者はあらかじめ投稿申込書を提出し、決められた期限内に投稿原稿を各学科または附属生物資源教育研究センターの学術研究委員へ提出する。
- （6）使用言語は日本語または英語とする。
- （7）原著論文、総説、解説の長さは、図表を含めて仕上がりで8ページまでとする。
- （8）投稿原稿の掲載の可否については学術研究委員会が決定する。
- （9）本研究報告の記載事項の著作権は島根大学生物資源科学部に帰属する。
- （10）本研究報告の公開方法については、PDF化したものを生物資源科学部のホームページ及び島根大学附属図書館のオンラインリポジトリシステムにより行うものとし、学術研究委員会が決定する。

執筆要領

- （1）原稿はパーソナルコンピュータと汎用されている文書作成ソフトウェア（MS-WORDなど）を用いて作成し、添付ファイル等と出力原稿を提出する。
- （2）図および表の掲載は、論文に必要欠くべからざるものだけに留め、効果的に挿入する。
- （3）図および表は、本文に組み込み、「図（Fig.）1」、「表（Table）1」のようにそれぞれ通し番号を付ける。
- （4）図の題及び説明文は、下部に書く。表の題及び説明文は、上部に書く。図および表の題、説明文、図表中の文字は英文にしてもよい。
- （5）図および表の大きさは、原則として横17cm、または8cm、縦は24cm以内である。
- （6）1ページは横書き1行25字、44行の2段組（約2,200字）を基本とする。タイトル、著者名、要旨は段組をしない。上下は2,2cm、左右は1,7cmのマージンとする。島根大学生物資源科学部研究報告No26の論文の体裁に合わせて著者が最終原稿を作成する。句読点は“.”, “,”, “”を用いる。
- （7）和文で提出する場合は、日本語の表題と著者名、英語の表題と著者名、英語の抄録（Abstract）に続き、緒言（＝前書き、はじめに、序）、材料と方法（＝実験方法、実験）、結果、考察（＝結果と考察）、総合論議（＝まとめ、結論）、謝辞、引用文献、日本語抄録（省略可）の順に記述することを基本とする。
- （8）英文で提出する場合は、Title, Author(s), Abstract, Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Conclusion, Acknowledgement(s), References, 日本語抄録の順に記述することを基本とする。
- （9）表題ページには以下の項目について記載すること。表題、ランニングタイトル（簡略化した論文表題、和文20字以内、英文50字以内）、著者不在中の校正代行者名、図表の枚数、連絡事項。
- （10）Abstractは250語程度とし、Abstractの最後の行にKeywords（5語程度、アルファベット順）

をつける。

- (11) 和文，英文を問わず，動植物の属以下の学名はイタリック体とする。
- (12) 文献は著者のアルファベット順に並べる。雑誌の号数は括弧で囲んで表示する。ただし、巻が通しページである場合は号数を省略する。
- (13) 引用文献は著者名のアルファベット順に，例えば下記のように，記載する。

(雑誌)

Aerts, R. and Chapin, F. S. III. (2000) The mineral nutrition of wild plants revisited: a reevaluation of processes and patterns. *Advanced Ecological Research*, **30**: 1–67.

西山嘉寛・吉岡正見（1996）山火事跡地の復旧に関する調査—被災1年目の玉野試験区の状況—。岡山県林業試験場研究報告，13：54–92.

Tilman, D., Knops, J., Wedin, D., Reich, P., Ritchie, M. and Siemann, E. (1997) The influence of functional diversity and composition on ecosystem processes. *Science*, **277**: 1300–1302.

上田明良・小林正秀・野崎愛（2001）カシノナガキクイムシの寄主からの臭いに対する反応の予備調査。森林応用研究，10(2)：111–116.

(書籍)

Bormann, F. H. and Likens, G. E. (1979) Pattern and process in a forested ecosystem. 253pp. Springer-Verlag, New York.

依田恭二（1971）森林の生態学. 331pp. 築地書館，東京.

本文中では「———が報告されている（上田ら 2001）。」「西山・吉岡（1996）は山火事跡地の———」「———に生物多様性が影響する（Tilman *et al.* 1997）。」「Aerts and Chapin (2000) は樹木の養分利用効率を———」のように引用する。

編集委員会

委員長 小林 伸雄
委 員 山本 達之
須貝 杏子
森 佳子
江角 智也
倉田 健悟
泉 洋平
小野 廣記

Editorial Board

Chief Editor Nobuo KOBAYASHI
Associate Editors Tatsuyuki YAMAMOTO
Kyoko SUGAI
Yoshiko MORI
Tomoya ESUMI
Kengo KURATA
Yohei IZUMI
Hiroki ONO

令和 6 年 3 月 31 日発行

発 行 者 国立大学法人島根大学生物資源科学部

〒690-8504 島根県松江市西川津町 1060

発行責任者 上 野 誠
(生物資源科学部長)